

日本語諸方言における終助詞ガ

—『全国方言談話データベース 日本のおふるさとことば集成』をデータとして—

杉浦 滋子

キーワード 日本語 方言 終助詞ガ 推量形 断定形

要旨

『日本のおふるさとことば集成』の沖縄県を除く都道府県のデータにおける終助詞ガを調査し、生起する条件を話し手が知識を持っているか否か、聞き手が知識をもっているか否かにより分類した。その結果から、奥田(1984)が共通語推量形について指摘した派生が、ガの機能として派生している場合、推量形とガの複合体の機能として派生している場合があること、共通語推量形が用いられない文脈への派生があることが明らかとなった。

1. 断定形・推量形と終助詞ガ

日本語諸方言においては、終助詞ガが認められており、全国における終助詞を扱った藤原(1986)は、九州全域、中国地方全域、四国全域（ただし徳島県、香川県では弱め）、近畿地方全域、中部地方福井県・石川県・富山県・新潟県・岐阜県・愛知県、関東地方群馬県・八丈島で用いられるとしている。個別方言の研究でももちろん言及があり、そのようなガ、およびガと他の終助詞の複合形を共通語と比較した先行研究には、共通語のジャナイ（カ）に相当するとする記述（『群馬県のことば』 p.40、『大阪府のことば』 p.53、榎垣 1938、榎垣 1972:63-64、朝日 2003 など）と、「やや強めの訴え」（『新潟県のことば』）、「軽い感動・詠嘆を表す」（『徳島県のことば』）、「主張・説得を表す」（『福岡県のことば』）などとの説明とともに共通語のヨなどの共通語訳を与える記述が見られる。ひとつの方言の中に両方のタイプがあるとする記述もある（『都道府県別全国方言辞典』「岡山県」 p.267、朝日 2001）。『日本のおふるさとことば集成』（以降『集成』）からいくつか例を挙げる。(1a-b)はジャナイ（カ）、(1c-d)はヨ、ゾと共通語訳されている。

(1)a. サーマワシヤ ナンカガ キヨッタガネー（島根）

猿回しや なにかが 来ていたじゃないか

- b. オシノノコリヤナ ト ワカッターガナ。(滋賀)
お汁の残りだな と わかっているじゃない。
- c. アルイテ カヨーマショッタガネー (島根)
歩いて 通ってましたよ
- d. カタズゲネワネンダカ° ッテ サガムオンナ (岩手)
片付けなく[て]はならないんだぞ」 って 叫ぶもんね。

共通語ジャナイ、およびヨに相当すると言われるガは(1a-d)のような断定形に後接するものだが、推量の形式に後接するガが方言でも共通語でも見られる。

- (2)a. コガッシャッターガ (島根)
脱穀されたでしょう
- b. ミンナ ソーヤットローガ。(福岡)
みんな そうだったろう。¹
- c. X9 サングレーノ モンダンベガナ。(埼玉)
X9 さんくらいの ものだらう。²
- d. お前さんとあたしとは研究助手時代からの無二の親友でしょうが。(筒井康隆 (1990)『文学部唯野教授』)³

断定形に後接するガと推量形に後接するガは同じ終助詞と考えて分析した。同じ終助詞と考えるのは、(3)のように断定形に後接するガの現れる文が、(2a-c)のような推量形に後接するガの現れる文と同じような機能をもつからである。(3a)の例において方言に推量形がないが共通語訳に推量形が用いられ、(3b)においては共通語訳に文脈により推量形と置き換え可能なジャナイが用いられていることからそれは明白である。

- (3)a. ウシノーヤ イーヨッタガ (島根)
白庭だ [と]言っていたでしょう？
- b. ムギ コメー ツクッテルホーガ ヨッポド イー ナンツー ヒトガー
麦[や] 米を 作っているほうが よっぽど いいなどという 人が

¹ 原共通語訳は「みんな そうだったろうが。」共通語で推量形に後接するガは苛立ちをこめて発話されるが、ガが多用される方言における推量形に後接するガは、そのような苛立ちがない場合も多い。その意味では共通語訳からガを削除した方が方言のニュアンスとしては正確なので修正訳を与えた。

² 原共通語訳は「X9 さんくらいのものだらうがね。」(2a)と同じ理由で修正訳を与えた。また、共通語で終助詞ガにネが後接することはない。

³ 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から例を得た。

デキテキタガネ (埼玉)

でてきたじゃない。

本稿ではそのような観点から『集成』の沖縄県を除く都道府県のデータにおける終助詞ガを調査した。ただし、談話の流れを考慮すると共通語訳に修正が必要と思われるケースが見られた。多くの場合は終助詞ガを逆接接続助詞ガと混同した結果である。一例をあげると、次の発話は、故郷から離れた場所である人と親戚ではないかと問われて「それは私のおじだ」と告げるものだが、逆接接続助詞と考えるよりは終助詞ガと考えた方が談話の流れから見て自然である。

(4) オ(ン) ズチャイカ° オ(ン) ズチャイカ° (鹿児島)

原共通語訳：おじさんだが おじさんだが

修正共通語訳：おじだよ おじだよ

また、石川、富山、群馬、高知などでは準体助詞ガが使われ、特に石川、富山方言で終助詞ガとの区別に注意を要する。(5a, b)のように準体助詞ガと終助詞ガの両方が見られる例があるが、このような場合には指定の助動詞に前接するものが準体助詞、後接するものが終助詞であることが明らかである。

(5)a. ミテモライニ イッタカ°ヤッタカ° (富山)

見てもらいに 行ったのだったよ⁴

b. ゲンプートユーノカ° アッタカ°ヤカ° (石川)

元服というのが あったんだよ⁵

このような方言では、指定の助動詞が後接しないガは、文末の場合も他の終助詞が後接する場合も終助詞ガと判断した。附録に修正訳の一覧を掲載した。

2. ガが用いられる文脈の分類

特定の変種における特定の形式に言及する分析は、基準とする形式の分析に依拠することとなり、その分析の正確さに左右されることとなるので、共通語の特定の形式に言及しない分析が望ましい。また共通語の形式と同じように、確認要求、同意要求といった談話機能を用いて記述する研究(朝日 2001、松丸 2005)もある⁶が、このように詳細

⁴ 原共通語訳は「見てもらいに 行ったのだったのだ」。

⁵ 原共通語訳は「元服というのが あったのだが」。

⁶ 杉浦(2015)もそのような記述をした。

にそれぞれの方言を把握することは不可能である上に、特定の変種の中の複数の形式を比較する上でも、複数の変種の形式を比較する上でも、共通点と相違点を明らかにするためには、様々なニュアンスの正確な記述の前に、すべての場合に値を決定できるような要因を取り出して分析する必要がある。そこで、話し手がその事柄を知っているのか知らないのか（推量しているのか）、聞き手も知っていると考えているか否か、という点に絞って分析することとした。すると、当然次の四種に分類されることになる。

| | (話し手の認識) 聞き手は知らない | (話し手の認識) 聞き手は知っている |
|------------|-------------------|--------------------|
| 話し手は推量している | A | B |
| 話し手は知っている | D | C |

諸方言におけるそれぞれの例を挙げる。

A. 話し手が推量していて、聞き手も確実に知っているとは考えていない文脈。

(6) A: ムカシノ ミチワ アンマリ トール ヒトワ オルマイガナー

昔の 道は あまり 通る 人は いないだろうね。

B: オルメナー (福岡)

いないだろうね。

B. 話し手が推量していて、聞き手が知っていると考えている文脈。(7)は、聞き手の家の当時の状況を推量して述べたもので、推量形に後接する逆接接続詞ガも見られる。

(7) ソレモジャログ ヒトニ クレナットガ オイカッタログ。(宮崎)

それもだろうが 他人に おやりになるのが 多かっただろう。⁷

C. 話し手が知っていて、聞き手も知っていると考えている文脈。聞き手に確認を要求している場合もあるが、そうではなく聞き手の同意を予想している場合もある。(8a)は推量形に後接する例、(8b)は断定形に後接する例である。

(8)a. イマ トレタ サンマオ ライネンノ ナツ ダスダローダガヤー? (愛知)

今 とれた サンマを 来年の 夏[に] 出すじゃないか。

b. ニゲル マモ アーニモ アリヤシネーガネ (埼玉)

逃げる 間も 何も ありは しないじゃない。

⁷ 原共通語訳は「多かっただろうよ」。

共通語でガが用いられるのは(2d)で例示したように C の文脈だが、「聞き手が知っている」のではないがそれに近い、「聞き手が知っていて当然と思われる」場合にも次のように用いられる。

- (9) でも今ここでつぶったって何の得もないよ、お互い。消耗だよ。インテリならそういうことわかるでしょうが？」村上春樹(1988)『ダンス・ダンス・ダンス 上』⁸

D.話し手が知っていて、聞き手が知っているとは考えていない文脈。このカテゴリの中で、共通語で推量形を使える文脈と使えない文脈があるため、便宜上この二つを区別する。共通語で推量形を使える文脈を D-1、共通語で推量形を使えない文脈を D-2 とする。

(10a)は D-1 で推量形に後接する例、(10b)の最初のガは D-1 で断定形に後接する例、(11a)は D-2 で推量形に後接する例、(11b)は D-2 で断定形に後接する例である。

- (10)a. ウチャニナー アゼ ツケロカ^oナ サキナ。ホイタラ アノ ミナミ
[私の]うちなどにね 畔[を]つけるでしょう 先[に]ね。そしたら あの南[の方に]
ヨメニ X41 サンカ^oナ ウチニ ツケタラナ
嫁に[行っている] X41 さんがね [私の]家に [畔を]つけたらね
コノヒトンチモ ツケルンジャー⁹ (香川)
この人のうちも 畔[を] つけるんだね
- b. オーユキガ フートネー モンペガ アーマシエンガ？
大雪が 降るとね もんぺが ないでしょう
チョコス マー キモノ カラゲテ ソッカラ トキヌヨート
ちよっとだけ まあ 着物[を] からげて それから 時には
サラテー スコイテ オオタワ アルカナ イケマセンガ (島根)
//// 手でかき分けて 大峠[を] 歩かないと いけないんですよ¹⁰
- (11)a. チョエト アニサン ミテモラエター コトガ アル チュオーガナ。(山口)
「ちよっと 兄さん 見てもらいたい ことが ある」と言うんだよね。
- b. トント オックナ イー ヤツト カエテムラッタガナ (鳥取)
すっかり 大きな いい ものと 換えてもらったよ。

また、「話し手が知っている」のではなく、「話し手が判断した」場合も D に含める。

⁸ 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から例を得た。

⁹ 他の話者の相槌を省略した。以下の例も同様。

¹⁰ 原共通語訳は「いけないでしょう」。

行為の当否を述べたものがこれに含まれる。次の例では一度述べたことをさらに強く主張する場合にガが用いられている。

- (12) ヒトツヤ フタツジャ マダ イケン。ヒトツヤ フタツジャ イケンガ。(広島)
一つや 二つでは まだ だめだ。一つや 二つでは だめだよ。¹¹

ほかにフィラーとして使われる表現に(13a)のように推量形に後接するものと(13b)のように断定形に後接するものがあるが、これらは除外した。

- (13)a. ナンジャロカ^oナ。キナズキジャッテ ヒニ ヒニ イクバー ナカッタロ。(香川)
何だろうよ。杵つきだって 毎日 毎日 行くほどでは なかったろう。
- b. ウチラモ マー ナンジャガ トチュービャクショージャッタケー
私たちも まあ なんだよ 途中百姓だったから
ヒャクション コト ナンモ ワカランケー (岡山)
百姓の こと[は] なにも わからないから

すべての方言を通して A、B は推量形に後接する例のみで、C、D については断定形に後接する例と推量形に後接する例があった¹²。つまり、話し手が実際推量している場合には推量形が用いられていて、話し手が知っている場合に推量形と断定形の両方が用いられている。

3. 『集成』における終助詞ガ

『集成』の沖縄以外の文字化されたデータから終助詞ガを収集し、分析した。以下に、終助詞ガの総数、断定形に後接する数、推量形に後接する数と、断定形に後接するガと推量形に後接するガが A-D の文脈で用いられた数を示す。他の終助詞の後接の有無と種類を () 内に示し、後接の終助詞と融合したとみられるゲは[]内に示した。どの文脈で用いられたかという判断は与えられた情報から、もっとも蓋然性の高い選択肢を選んだ。なお、『集成』に収録されたデータの量は、記述に使われたページ数でいうと鳥取県米子の 49 ページから、岩手県遠野市の 166 ページまで、地点によってかなり異なる。そこで、それぞれのデータ量の目安として記述に使われたページ数を示した。

¹¹ 原共通語訳は「一つや 二つでは まだ いけない。一つや 二つでは いけないが」。

¹² 『NHK 方言談話資料』には B に断定形に後接するものがあった。しかし、家に帰った聞き手をねぎらう決まり文句として見られるもののみで、例外と考えてよい。

(i) クタビレタガシ マア (山形県黒川)

疲れたでしょう、 まあ

| | | ガ | 断定形に後接するガ | 推量形に後接するガ |
|------------------|----------------|----|---|------------------|
| 1-1 | 北海道 | 0 | 0 | 0 |
| 1-2 | 青森 | 0 | 0 | 0 |
| 2-1 p.11-177 | 岩手県遠野市 | 13 | 12 : C 1 (ナ 1) , D-2 11(φ6、ヨ 3、サ 1、 ナ 1) | 1 : A 1 (ナ 1) |
| 2-2 p.179-262 | 秋田県湯沢市 | 0 | 0 | 0 |
| 3-1 p.11-95 | 宮城県仙台市 | 0 | 0 | 0 |
| 3-2 p.97-183 | 山形県東田川 郡櫛引町 | 1 | 1 : D-2 1 (ノ 1) | 0 |
| 3-3 p.185-254 | 福島県大沼郡 昭和村 | 9 | 9 : C 1 (φ1) , D-2 8 (φ7、ナ 1) | 0 |
| 4-1 p.11-116 | 茨城県水戸市 | 7 | 7 : D-2 7 (φ3、ナ 4) | 0 |
| 4-2 p.117-217 | 栃木県日光市 | 0 | 0 | 0 |
| 5-1 p.11-101 | 埼玉県児玉郡 上里町 | 21 | 20 : C 10 (ネ 10) , D-2 10 (φ1、ネ 9) | 1 : A 1 (ナ 1) |
| 5-2 p.103-230 | 千葉県長生町 長生村 | 0 | 0 | 0 |
| 6-1 p.11-105 | 東京都台東区 | 0 | 0 | 0 |
| 6-2 p.107-188 | 神奈川県小田 原市 | 0 | 0 | 0 |
| 7-1 p.11-142 | 群馬県前橋市 | 16 | 15 : C 12 (ネ 8、ンネ 1、ネネ 1、ノ 1) , D-2 3 (ネ 3) (ほかにフィ ラー、ネ 1) | 0 |
| 7-2 p.143-261 | 新潟県糸魚川 市 | 4 | 4 : C 1 (ネ 1) , D-2 3 (ネ 3) | 0 |
| 8-1 p.11-60 | 長野県木曾郡 開田村 | 5 | 5 : D-2 5 (φ4、ヤ 1) | 0 |
| 8-2 p.61-152 | 山梨県塩山市 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|-------------------|-----------|----|---|---|
| 8-3 p.153-237 | 静岡県静岡市 | 1 | 1 : D-2 1 (φ1) | 0 |
| 9-1 p.11-66 | 岐阜県中津川市 | 0 | 0 | 0 |
| 9-2 p.67-179 | 愛知県常滑市 | 9 | 7 : C 1 (ナ 1) , D-2 6 (φ4、ナ 2) | 2 : A 1 (φ1) , C 1 (ヤ 1) |
| 9-3 p.181-252 | 三重県志摩郡阿児町 | 9 | 9 : C 8 (φ2、ノ 2、[ゲ]4) , D-2 1 (φ1) | 0 |
| 10-1 p.11-89 | 富山県礪波市 | 21 | 19 : C 8 (φ5、ネ 3) , D-2 11 (φ11) | 2 : A 1 (φ1) , C 1 (φ1) |
| 10-2 p.91-162 | 石川県羽咋郡押水町 | 4 | 4 : C 1 (イネ 1) , D-2 3 (φ2、イノ 1) | 0 |
| 10-3 p.163-250 | 福井県勝山市 | 3 | 3 : D-2 3 (ノ 2、ナ 1) | 0 |
| 11-1 p.11-100 | 京都府京都市 | 0 | 0 | 0 |
| 11-2 p.101-202 | 滋賀県甲賀郡甲賀町 | 14 | 14 : C 5 (ナ 4、ヨ 1) , D-2 9 (φ1、ナ 8) | 0 |
| 12-1 p.11-97 | 奈良県五條市 | 1 | 1 : D-2 1 (ナ 1) | 0 |
| 12-2 p.99-196 | 和歌山県田辺市 | 1 | 1 : C 1 (ナ 1) | 0 |
| 13-1 p.11-118 | 大阪府大阪市 | 3 | 3 : D-2 3 (ネ 1、ナ 2) | 0 |
| 13-2 p.119-224 | 兵庫県相生市 | 6 | 6 : C 3 (ナ 3) , D-2 3 (ナ 3) | 0 |
| 14-1 p.11-39 | 鳥取県米子市 | 12 | 12 : C 5 (φ1、ナ 4) , D-2 7 (φ1、ナ 6) | 0 |
| 14-2 p.41-133 | 島根県仁多郡仁田町 | 26 | 22 : C 14 (φ9、ネ 4、ナ 1) , D-2 8 (φ4、ネ 4) | 4 : B 1 (φ1) , C 3 (φ1、ネ 2) |
| 14-3 p.135-241 | 岡山県小田郡矢掛町 | 48 | 35 : C 4 (φ3、ナ 1) , D-2 31 (φ30、ノ 1) (ほかにフィラー、φ7) | 5 : A2 (φ1、ナ 1) , C2 (φ1、ナ 1) , D-2 1 (φ1) (ほかにフィラー、φ1) |

| | | | | |
|-------------------|----------------|-----|--|--|
| 15-1 p.11-119 | 広島県広島市 | 14 | 13 : C 1 (ナ 1) , D-2 12 (φ10、ネ 2) | 1 : C 1 (φ1) |
| 15-2 p.121-264 | 山口県豊浦郡 豊北町 | 26 | 11 : D-2 11 (φ5、ナ 5、 ノ 1) | 14 : B 1 (ナ 1) , C 9 (ネ 1、ナ 8) , D-2 4 (ナ 4) (ほかにフィ ラー、ナ 1) |
| 16-1 p.11-131 | 香川県観音寺 市 | 29 | 17 : C 1 (φ1)、D-2 16 (ナ 16) | 11 : A2 (φ1、ナ 1)、 C 8 (ナ 8) , D-1 1 (ナ 1) (ほかにフィラー 1、ナ 1) |
| 16-2 p.133-241 | 徳島県阿南市 | 0 | 0 | 0 |
| 17-1 p.11-126 | 愛媛県松山市 | 7 | 3 : D-2 3 (φ2、ノ 1) | 4 : A 1 ([ゲ]1) , C 3 ([ゲ]2、ナ 1) |
| 17-2 p.127-255 | 高知県高知市 | 31 | 25 : C 12 (φ4、ネ 6、 ヨノ 1、ノ 1) , D-2 13 (φ3、ネ 9、ヨ 1) | 6 : C 6 (φ2、ヨ 4) |
| 18-1 p.11-89 | 福岡県北九州 市 | 18 | 13 : C 1 (φ1)、D-2 12 (φ8、ナ 4) | 5 : A 1 (ナ 1) , C 4 (φ4) |
| 18-2 p.91-173 | 大分県大分郡 狭間町 | 6 | 5 : C 1 (イ 1) , D-2 4 (φ1、ナ 2、ナーエ 1) | 1 : B 1 (エ 1) |
| 18-3 p.175-247 | 宮崎県宮崎市 | 27 | 22 : C 5(φ4、ナ 1), D-2 17(φ9、ナ 6、エ 2) | 5 : B 4 (φ4) , C 1 (φ1) |
| 19-1 p.11-104 | 佐賀県佐賀市 | 20 | 0 | 20 : C 19 (φ19) , D-1 1 (φ1) |
| 19-2 p.105-168 | 長崎県平戸市 | 5 | 4 : D-2 4 (φ3、ネ 1) | 1 : C 1 (φ1) |
| 19-3 p.169-257 | 熊本県球磨郡 錦町 2 | 14 | 10 : C 3 (φ1、ネ 1、 ナ 1) , D-2 7 (φ3、ナ 4) | 4 : C 4 (ナ 4) |
| 20-1 p.11-112 | 鹿児島県揖宿 郡穎娃町 | 34 | 19 : C 2 (φ1、ニ 1) , D-2 16 (φ12、ナ 3、 イ 1) | 15 : A 1 ([ゲ]ナ 1)、 C 14 (φ8、ナ 3、ヨ 2、 ナハラ 1) |
| 合計 | | 464 | 352 (ほかにフィラー7) | 103 (ほかにフィラー2) |

4. 結果

終助詞ガが現れる地点と現れない地点があるが、現れる地点の中では、佐賀県佐賀市を除くすべての地点に断定形に後接するガが見られる。また断定形に後接するガが見られる方言においては、山口県豊浦郡豊北町を除いて断定形に後接するガの方が数が多い。

以下、地域的な傾向を述べる。¹³東北地方では、最も関東に近い福島県および岩手県でのみ見られる。岩手県方言については、近江商人との交易があったため、宮古と盛岡に関西の影響があるという指摘がある(森下 1982)。また、本堂(1967)は「そろそろ、学校へ行く時間だよ」の「だよ」に対応する形式として沿岸部で用いられるダガヨは「周辺地域と無関係」としている。よって、岩手県遠野市の状況は、岩手県沿岸部に見られる関西方言的特徴と考えてよさそうである。

関東地方では群馬県、埼玉県、茨城県に見られた。

中部地方では石川県、富山県に多く、ほかに新潟県、長野県、福井県に見られる。

近畿地方では滋賀県以外にはそれほど多くない。また、滋賀県以外では他の終助詞が後接する。

中国地方では広く使われる。

四国地方では徳島県阿南市でのみ見られなかった。なお、『徳島県のことば』ではガ・ガエ・ガエナ・ガイナなどが「軽い感動・詠嘆を表す」終助詞として挙げられているので、徳島県内での分布はさらに調査が必要である。

九州ではすべての県である程度見られたが、ばらつきはかなりあり、宮崎県、鹿児島県、大分県が多い。特に注目されるのは、上述のように佐賀県で多用されるが、それがすべて推量形に後接するもので、他の県のように断定形に後接するものがなかったことである。

5. ガの機能の派生

推量を表す形式を用いた文が「おしはかり」から「念おし的なたずねる文」へ、そしてさらに「《おしはかる》という意味はもちろん、《たずねる》という意味もなくなって、念おし性だけがのこっている」「たんなる念おし文」へと用法を広げることは奥田(1984:65-67)で指摘されている。「おしはかり」とは話し手が推量していることであるから、Aの文脈に伴う機能である。「念おし的なたずねる文」では、話し手は推量していて聞き手は知識をもっているのでBの文脈に伴う機能である。「たんなる念おし文(おしはかることもたずねることもない)」では、話し手は知識をもっていて聞き手も知識をもっているので、Cの文脈に伴う機能である。とすると、この派生はAの文脈で用い

¹³ 杉浦(2015)では『NHK 全国方言資料』第1-6巻でのガを調べた。その結果も併せて検討したいが、協力者の選定基準、談話採取の方法、時期の違いもあるので今回は『集成』のデータのみを扱う。

られていた形式が B の文脈で用いられるようになり、さらに C の文脈で用いられるという派生である。この派生はガが共通語より多用される方言でも起こるが、ガという形式があると、談話の要素をガの機能として再分析することが可能となる。(6)は A の文脈での例だが、推量形は推量のみを表し、ガが話し手の推量に対する同意要求を表すという分析ができる。その再分析が行われれば、ガが断定形に後接して話し手が推量していない場合の同意要求を表すことができるので、(8b)のような用法が可能となる。

ところで、C の文脈での発話（つまり話し手も聞き手も知っていることがらの提示）が必要になる理由がナラティブの自然な展開である場合がある。つまり、ナラティブの中で、後続の情報の理解のために聞き手が知っているがその時点で活性化されていない情報の提示である。(14a)では「天気が非常によかった」ことを聞き手は知っているが、稲の生育が遅れていたのが通常の生育に追いついたことの原因として談話の中で提示の必要がある。(14b)でも「長崎の道が狭かった」ことを聞き手は知っているが声が両側の家に届き、物を売り歩くことが可能だったことの原因として提示の必要がある。¹⁴

(14a). アトノ フガ エーコトニャ テンコーガ ガンガン テリマシタローガナ。

後の 運が いい ことには 天候が ガンガン 照ったでしょう。

ソレデ ドンドン ヤッポー ナンジャーナー。オイツイタ。¹⁵ (山口)

それで どんどん やはり なんだな。追いついた。

b. モト ホラ マチノ ミチノ セボーゴザシタローガ

もと ほら 町の 道が 狭うございましたでしょう。

ソレデ リョーホーニ キコエテ ヨカッタッテスバツテ (長崎)

それで 両方に 聞こえて よかったのですけれど

(10b)の最初のガの現れる文も、後続の文の理由を示すものだった。

次の例では話し手の家に炊事をする人がいることは聞き手は多分明確に知らないので、D の文脈で用いられるという派生が起きている。この場合も「妻が喜んでいる」理由が提示されており、共通語訳から、共通語でもこの派生があることがわかる。

(15) ソイケン ヨメゴガ オッケン マ マカニヤーシテノ アローガ。

それだから 嫁が いるから まあ 炊事をする人が あるだろう。¹⁶

ソイデ モー ヨロコードッ。(佐賀)

それで もう [妻は] 喜んでいる。

¹⁴ Szatrowski (1994)はデショウがこのような機能をもつことから、理由を表す接続詞へと文法化していく可能性があるとして述べている。

¹⁵ 聞き手の相槌を省略した。以下の例でも同様。

¹⁶ 原共通語訳は「あるだろうが」。

Cの文脈で用いられる形式がDの文脈で用いられるのは、理由と結果ではなく、(10a)のように出来事が起こる順序を示す場合もある。共通語訳からわかるように、共通語でもこの派生が起きていて、ここでD-1とした。

共通語で推量形が用いられない文脈をD-2とし、推量形に後接する例と断定形に後接する例を(11)に挙げた。(16)にもう一例推量形に後接する例を挙げる。(11a)と同じ話者が井戸掘りを話題にした発話である。共通語訳で「～んだよ(ね)」とされているとおり、共通語のダロウは不適切となる。

- (16) ハエテミタ トコロガ エー ヤキガ デテナー。
 入ってみた ところが いい 土の層が 出てね。
 ミズガ デョーガナ。ドンドン ドンドン。(山口)
 水が 出るんだよ。¹⁷どンドン どンドン。

D-1で用いられていた形式がD-2で用いられるようになるという派生は他にもある。共通語ではD-1で推量形と同じようにジャナイ(カ)も用いられるが、ジャナイ(カ)の変種である静岡方言のジャン、大阪方言のヤンカが、話し手によるナラティブの中でD-2の文脈で用いられている(18bは佐藤1990より)。(18a)では共通語訳でジャナイをあてているが、ジャナイは不適切で「～わけ」「～のよね」などが適切となる。¹⁸

- (17) a. 当時はもんぺがないじゃない。着物をからげて歩かないといけないのよ。
 b. うちが先に畔をつけるじゃない。そうするとこの人のうちも畔をつけるのよ。
 (18)a. ヘーカラ ナンダリ ニヒャクエンシカ ゼニ ニャーダイナー オキヤーコデ
 それから なんととっても 200円しか お金が ないのだよなあ お蚕で
 ヒャクエン オチャデ ヒャクエン トッテ ソノ ゼニデ カウダンテ
 百円 お茶で 百円 かせいで その お金で 買うのだから
 ドーシズ ナンツッタトコンサ アレデモ アノー ニヒャクゴジューツボバカノ
 どうしよう などといったところがね あれでも あのう 250ツボばかりの
 ソノ タンベツダダイナ。ソノ タンボカ。ソレン ニヒャクエンデ
 その 反別なんだよな。その 田んぼが。それが 200円で
 カッタジャン ソン トキ。(静岡)
 買ったじゃない その 時。
 b. ハッチガナー。ダレクンノッテ ユーカラ
 ハッチ(あだ名)がね。「誰君の?」って 言うから、

¹⁷ 原共通語訳は「出ているんだよ」。

¹⁸ 注に「『ジャン』は念押し・強調などを表す終助詞」とある(注17)。

ン一、マダ ワカランケドナーッテ ユッテナ一。ホンデナー。
「ん、まだ 分からないけど」って 言ってね。それでね。
サテンデ ショーケンガイシャ マワッタ カエリ サテンデ イッテテン ヤンカー。
喫茶店で 証券会社 回った 帰り 喫茶店に 行っていたのよね。

6. 結び

本稿では、共通語推量形について奥田(1984)が指摘した派生が、諸方言においてガの機能として派生していく場合と推量形とガの複合体の機能として派生していく場合があることを見た。また、共通語推量形が用いられない文脈での使用へと派生が起こっている場合があることも見た。

他の言語においても B,C の文脈で用いられていた形式が D の文脈で用いられるようになった例がある。英語の付加疑問文はイギリス英語、アメリカ英語で(19a)のような B の文脈、(19b)のような C の文脈で用いられるが、イギリス英語では(19c)のような D の文脈で用いられるようになっている(Algeo 1998:181)。

(19)a. You don't wear glasses, do you?

(直訳) あなたは眼鏡をかけない、違うか?¹⁹

(意訳) あなたは眼鏡をかけないよね?

b. It's a nice day, isn't it?

(直訳) 気持ちのいい日だ、違うか?

(意訳) 気持ちのいい日だね。

c. "I telephoned you this morning, but you didn't answer." "I was in the bath, wasn't I?"

「午前中に電話したけど出なかったね」「(直訳) 私はお風呂に入っていた、違うか?」

「(意訳) お風呂に入っていたの!」

Algeo が(19c)を聞き手に対する苛立ちを表現する antagonistic 「敵対的」用法としていることからわかるように、日本語とは異なる要因による派生だが、D の文脈で用いられていなかった形式が用いられるようになるという点では同じである。他の言語でも同様の観点からの派生を考察していきたい。

参考文献

- 朝日祥之(2001)「名古屋方言における文末詞『ガ』」『阪大社会言語学研究ノート』3:12-19
榎垣実(1938)「和歌山県方言(五)」『国語研究』6巻2号(『日本列島方言叢書』14『近畿方言考②』1996再録)

¹⁹ 訳はいずれも筆者による。

- (1962)「三重県方言」 榎垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂
- 太田一郎(2001)「鹿児島県若年層話者方言のヨとガ —ネオ方言の記述法を考える—」
『鹿児島大学法文学部紀要人文科学論集』53:37-59
- 奥田靖夫(1984)「おしはかり (一)」『日本語学』Vol.3 12月号:54-69
- 国立国語研究所(2001-2008)『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』
国書刊行会
- 佐藤虎男(1990)「大阪弁の文末詞ヤンカについて」大阪府方言(11) 大阪大学国語国文学研究室『学大國文』33:1-25
- 佐藤亮一編(2009)『都道府県別全国方言辞典』三省堂
- 杉浦滋子(2006)「日本語諸方言に見る終助詞ガの形式上・機能上の差異」『言語と文明』
4:38-54 麗澤大学大学院言語教育研究科
- 平山輝男他編(1997-2013)『日本のことばシリーズ』明治書院
- 本堂寛(1967)「岩手県方言の系統と区画について」『一関工業高等専門学校研究紀要』
1:48-76
- 藤原与一(1986)『昭和日本語方言の総合的研究 第3巻 方言文末詞〈文末助詞〉の研究 (下)』春陽堂書店
- 松丸真大(2005)「島根県松江市方言のガ系文末詞」『阪大社会言語学研究ノート』7:62-72
- Algeo, J. (1998) 'Myth 21 America is ruining the English Language.' In Bauer and Trudgill (eds.) *Language Myths*. London & New York: Penguin Books.
- Szatrowski, P. (1994) 'Discourse Functions of the Japanese Epistemic Modal DESYOO.' *Proceedings of the Twentieth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*.

| 附録 | | 原共通語訳 | 修正共通語訳 | 文脈 |
|--------|----------|----------------------------------|-------------------------------|-----|
| 02-1 | 岩手 p.51 | ミデツカラ ド オモタツタベガナ | [相手を]見ているから[見なくてよい]と思っただらうかな? | A |
| 02-1 | 岩手 p.55 | ドーズゴド ナガツタカ | どうということ[は] なかかったが。 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.57 | イマ カンケ デミツト オガスガヨ | 今考えてみると おかしいがね。 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.63 | マゲ(ン)テウ フガネカ ド ユツ | [酒を] こぼしては ためだが と 言って | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.66 | グヤメガエダリ スタンダガヨ | 小言を言われたり したもんだがよ。 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.70 | トンデモネー ボカ° フイダモンダツケガ° ヨー | とんでもない 嘘[を] ついたものだったよ。 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.70 | ソリヤ ボカ° ダガ° ナー ド オモタツテ | 「それは 嘘だかな」と 思ったとして[も] | C |
| 02-1 | 岩手 p.70 | ダマツテダツケンカ° ー。 | 黙っていたものだよ。 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.89 | ハヤク アス(ン)ビ シア クンレバ エーガ° ド オモツタナ。 | 早く遊ぶ 日が くれば いいが と 思ったな。 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.92 | マツタナ。 | 待ったもんだがね | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.137 | シヨーシユー カガツテ エツタガ° サ、 | 招集[が] かかって 行ったがね、 | D-2 |
| 02-1 | 岩手 p.162 | ナナズダツタガナ | 7歳だったけどな | D-2 |
| 03-II | 山形 p.158 | シレバリデ ネーガノ | それほどでは ないかね | D-2 |
| 03-III | 福島 p.212 | ソクレー ホンキダツタナダガ° ー | そのくらい 本気だったんだが | D-2 |
| 03-III | 福島 p.213 | ベズニ ヤンダー ドモ オモアネーガ° ー | 別に 嫌だとも 思わないが。 | D-2 |
| 03-III | 福島 p.214 | デギネー ゴドワ ネーガ° ナー。 | できないことは ないが。 | D-2 |
| 03-III | 福島 p.215 | ミ(ン)ズ ツケネーデ ヒグー、ナンテ ユーガ° ー。 | 水[を] つけないで 引く なんて 言うが。 | C |
| 03-III | 福島 p.221 | ナレニ キテンカ° ナ | 習いに 来ているんだ | D-2 |
| 03-III | 福島 p.224 | ワガンナクテ ナグヨーナンダガ、 | わからなくて 泣くようなんだが、 | D-2 |
| 03-III | 福島 p.227 | タンボモ ウナツテモラツターガ° | 田んぼも 耕してもらったよ | D-2 |
| 03-III | 福島 p.245 | タイシタ ナカ° クモ ヨイジェーナンカツターガ° 。 | たいてい 長く 共同では やらなかつたよ。 | D-2 |
| 03-III | 福島 p.246 | ナンダツテ ヨイジェーデ カツタツケガ° | なんだって 共同で 買ったよ | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.84 | アジントノ ナニオ ヤツタツケガネ。 | あの人の 何を やったか。 | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.84 | ミズオ ノムノウ タマスコトワ ヤツタツケガ° | 水を 飲むのを ためすことを やったが | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.84 | タマス トコロオ ヤツタツケガ° ネ | 試すところを やったがね | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.85 | ソレオ ユーケガ° ーネ | それを 言っていたけどな。 | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.90 | ハガ° コボレンダツテ ユーランダガ° ネ | 歯が こぼれるんだ というんだがね。 | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.98 | ヨケード ノメート オモランダガ° | よけいに 飲めないだろうと 思うんだが。 | D-2 |
| 04-1 | 茨城 p.103 | コロツシマーガ° ー、メツケレバネ。 | 殺してしまうが、見つければね。 | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.47 | ヨク X4チャヤガ ユーガネ | よく X4ちゃんか 言うよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.47 | アユンヨ ヤリテガ イーガネー | ああいう やりかたが いいよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.51 | トモ スキナンダ ツーガネ | とても 好きなのだ というよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.52 | デネンダ ツーガネ | 出ないのだ というよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.55 | ソーニ ユーランダ ツツタガネー | そう 言うのだ と 言ったよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.55 | ドーシヨモ ネーランダヨー ナンテ ユツタガネー | どうしようも ないだよ。」なんて 言ったよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.56 | トーキョーカラ モコニ キタンダヨ ツテ ユーガネ | 東京から 婿に 来たのだよ」って 言うよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.57 | ヨク ユツタガネ | よく 言ったよ | D-2 |
| 05-1 | 埼玉 p.93 | X9サングレーノ モンダンベガナ。 | X9さんくらのものだろう。 | A |
| 07-1 | 群馬 p.67 | シヤッキンナンカ ナセル ツツンデー ヤツタガネー | 借金など 返せるといって[建て替]えをやつたよ | D-2 |
| 07-1 | 群馬 p.99 | ミーデ フーイタンダガネ。 | ざるで ぶるつたんだよ | D-2 |

| | | | | | | |
|--------|----|-------|-----------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|-----|
| 08-1 | 長野 | p.50 | イエードコジャネーガ ヤ。 | いいどころではないがなあ。 | いいどころではないよ。 | D-2 |
| 08-1 | 長野 | p.51 | ソイツア ソーダガ | そいつは そうだが。 | それは そうだよ。 | D-2 |
| 08-1 | 長野 | p.53 | …シテ イウガ。 | p2 | …と 言うよ | D-2 |
| 08-1 | 長野 | p.53 | ワルキ° デ ユー ヤツダ ネーガ | 悪気で 言うのじゃ ないが。 | 悪気で言うのじゃ ないよ | D-2 |
| 08-1 | 長野 | p.59 | …シツチャ ヨコスガ | …って そう言うっちゃ [電話を]よこすよ、 | …って そう言うっちゃ [電話を]よこすよ | D-2 |
| 08-III | 静岡 | p.230 | ウチノシターセワー シングラエーダッキカモ シン チエーガ。 | 家の 人は 世話を するくらいだったかも しれないが。 | 家の 人は 世話を するくらいだったかも しれないよ。 | D-2 |
| 09-II | 愛知 | p.112 | ヒヤクドマイリオ ヤッタ オボエガ アルダガナ。 | 百度参りを やった 覚えが あるのだがな。 | 百度参りを やった 覚えが あるよ。 | D-2 |
| 09-II | 愛知 | p.112 | シビレ キラシタ オボエガ アルダガナ。 | しびれを きらした 覚えが あるんだがね。 | しびれを きらした 覚えが あるよ。 | D-2 |
| 09-II | 愛知 | p.159 | マダ チョット タラングライダガ | まだ 少し 足りないくらいなのだが | まだ 少し足りないくらいだよ | D-2 |
| 09-II | 愛知 | p.164 | オレ イッペンモ イッタ コト ナイダガ | 私[は] 一度も 行った こと[が] ないのだが。 | 私は 一度も 行った ことが ないよ | D-2 |
| 09-II | 愛知 | p.175 | アサ ツクダモンデ ヨル ノルダラーガ | 朝[に] 着くの だもので 夜[に] 乗るだろうよ。 | 朝着くんだから 夜乗るんだだろう。 | A |
| 09-III | 三重 | p.226 | オラ アガマモ エンゾクニ イタ コトガ アルガ | 私たち 阿嬭も 遠足に 行った ことは あるが | 私たち 阿嬭も 遠足に 行った ことは あるよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.32 | X1さま ユートツタガ | X1さま [と] 言っていたの[=三人]。 | X1さま [と] 言っていたよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.33 | ドロボー ハイツタガ | 泥棒[三人] 入ったの | 泥棒[三人] 入ったよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.33 | モンダイ オキタガ | 問題[が] 起きたの | 問題が 起きたよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.36 | ズリ ヒツパッチ キトツタガ | そり[を] 引っぱって 来ていたのだ。 | そり[を] 引っぱって 来ていたよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.39 | ソーナツトルガネ | そうなっているがね | そうなっているよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.46 | ミテモライニ イツタガ ヤツタガ | 見てもらいに 行ったのだったのだ。 | 見てもらいに 行ったのだったよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.47 | コンナ ムシガ オルガ ユーデ。 | こんな 虫[が] いるのだ [と] 言って。 | こんな 虫[が] いるよ[と] 言って | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.50 | オンシツデ ツクッタヨナ モン タベトルガ ネ | 温室で 作った ような もの[を] 食べているのだね。 | 温室で 作った ような もの[を] 食べている じゃ ないか | C |
| 10-1 | 富山 | p.56 | ウチニモ ソーユー コト ユートツタガ | 家でも そういう こと[を] 言っていたのだ。 | 家でも そういう こと[を] 言っていたよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.59 | ソナガ ツシヨンナイガ | その ようなのは おいしくない。 | その ようなのは おいしくないよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.61 | コツチエ クルマデニー ナンスルガ | こっちへ 来るまで 何する[=手数をかける]けれど。 | こっちへ 来るまで に あれするよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.61 | ヤットク タネ マエテ ナンスルガ | やつと 種[を] まいて なに [=育成]するのだ。 | やつと 種[を] まいて なにするよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.62 | ホロホロシタガ タベトルガ | ほろほろしたの [を] 食べられるけれど。 | ほろほろしたの を 食べられるよ。 | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.63 | イマ ナン センイデモ ソメルガ | 今は みんな 繊維でも 染めるのに。 | 今は みんな 繊維でも 染める じゃ ない。 | C |
| 10-1 | 富山 | p.66 | ンナ カワイイシモガ ネ | みんな 乾いてしまうのだ。 | みんな 乾いて しまっ じゃ ない。 | C |
| 10-1 | 富山 | p.67 | ンナ ヤットツタガ | みんな やっていたものだ。 | みんな やって いた じゃ ない。 | C |
| 10-1 | 富山 | p.75 | コメデモ カズイテヤハツタガ | 米でも 背負って おられたが。 | 米も 背負っ て おられたよ。 | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.77 | ソナハ ナン シテハツタガ | その ような 話を しておられたのだよ。 | その ような 話を しておられたよ | D-2 |
| 10-1 | 富山 | p.80 | アルデ オラ アノ X3サン オボイタクヤガ | あれで 私 あの X3さん[を] 知ったときだが。 | あれで 私 あの X3さん を 知ったよ。 | D-2 |
| 10-II | 石川 | p.137 | ユートマスケ イネ | 言ってますよ。 | 言っている じゃ ない ですか | C |
| 10-II | 石川 | p.140 | ゲンブートユーノガ アツソノガ ヤガ | 元服というの が あったのだが | 元服というの が あったんだよ | D-2 |
| 10-III | 福井 | p.182 | ハンタワラホド バシエスガ ノー | 半襟ほど 載せませんがね。 | 半襟ほど 載せ ます。 | D-2 |
| 10-III | 福井 | p.225 | ウラントコ バーサン エーガ ナー | 私の ところの [お]ばあさん[は] いいがね | 私の ところの [お]ばあさん[は] いいよ | D-2 |
| 10-III | 福井 | p.231 | ホイデ ゴジル スーンニヤガ ノー | そして 呉汁[を] 吸うのだがね。 | そして 呉汁 を 吸うんだよ。 | D-2 |
| 11-II | 滋賀 | p.122 | ヨーケ タベヤヒテンヤガナ | たくさん 食べな さん さん だよ。 | たくさん 食べ な さん さん じゃ ない | C |
| 11-II | 滋賀 | p.160 | クレウガ ヨーケ ツクツタタガヨ | 桑が たくさん 作って あった が ねえ。 | 桑が たくさん 作っ て あった じゃ ない。 | C |
| 11-II | 奈良 | p.184 | コレウライホドナ クレヨツタガ | これくらい ほど ねえ、 くれ った が | これくらい ほど ねえ、 くれ たら よ | D-2 |
| 12-1 | 奈良 | p.49 | チカクニ イル ワシワ ワカレベンガナ。 | 近くに いる 私 は わから ない じゃ ないか。 | 近く に いる 私 は わか ら ない よ。 | D-2 |
| 13-1 | 大阪 | p.30 | オーサカデ イーマスガネー | 大阪で 言います が ねえ。 | 大阪で 言い ます よ。] | D-2 |

| | | | | | | | | | | |
|--------|----|-------|--------|----------|-------|-----------|------|--------------------------|-----------------------|-----|
| 13-II | 兵庫 | p.214 | ヒトツモ | カンキョー | ワカヘンガ | ナ | モー | ひとつも 感興[が] わかないよ もう。 | ひとつも 感興[が] わかないじゃない | C |
| 14-I | 鳥取 | p.28 | ウツランガナ | | | | | 映えないよ。 | 映えないじゃない | C |
| 14-I | 鳥取 | p.29 | アンマー | タキヤー | ガナ | | | あんまり 高い | あんまり 高いじゃない | C |
| 14-I | 鳥取 | p.31 | ツボー | モラツタガナ | | | | 壺を もらったよね。 | 壺を もらったよ | D-2 |
| 14-I | 鳥取 | p.34 | イケンヤ | ナツテシマウガナ | | | | だめになっちゃったよ。 | だめになっちゃったよ | C |
| 14-II | 鳥根 | p.78 | チガ | マシタガネ | | | | 違いましたかね | 違いましたよ | D-2 |
| 14-II | 鳥根 | p.99 | アリヤ | オゾー | チ | イケマシエタツタガ | | あれは 怖くて だめだったでしょう | あれは 怖くて だめでしたよ | D-2 |
| 14-II | 鳥根 | p.101 | ワラチャ | トキシラズ | ツ | モンダガナ | | 「お前は 時知らず というものだぞ」 | 「お前は時知らずというものじゃないか」 | C |
| 14-II | 鳥根 | p.116 | アゲダガ | | | | | そうだね | そうだよ | D-2 |
| 14-II | 鳥根 | p.117 | オランガネ | | | | | いないよ | いないじゃない | C |
| 14-II | 鳥根 | p.120 | オモ | ヤナ | コト | デスガネ | | 思うような ことですよ | 思うような ことですよ | D-2 |
| 14-III | 岡山 | p.154 | ヨ | ー | タガ | | | 言っていたが | 言っていたよ | D-2 |
| 14-III | 岡山 | p.168 | ボンナ | ー | モツ | アゲリヤ | エ | それなら 持って 上げれば いいのに | それなら 持って 上げれば いいよ | D-2 |
| 14-III | 岡山 | p.168 | ハツド | ー | キデ | モチアガリヤ | エ | 発動機で 持ち上げれば いいのに | 「発動機で 持ち上げれば いいよ」 | D-2 |
| 14-III | 岡山 | p.190 | カコ | ー | タ | コトガ | アルガノ | 使った ことが あるよ | 使った ことが あるよ | D-2 |
| 14-III | 岡山 | p.212 | カヨ | ー | ランケ | ー | ジユ | 蚕を 飼っていないから 自由になるよ。 | 蚕を飼っていないから自由になるじゃない | C |
| 15-I | 広島 | p.25 | キデ | ツクツタノ | オ | クミヨツタ | ン | 木で 作ったのを 組んでいたのだが。 | 木で 作ったのを 組んでいたんだよ。 | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.25 | クミヨツタ | ン | ジャガ | | | 組んでいたのだが。 | 組んでいたんだよ。 | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.67 | ナツ | チャー | ー | オランガ | | なつては いないが。 | なつては いないよ | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.67 | ソー | ユ | ー | トコロガ | イ | そういうところへは いきませんが。 | そういうところへは 行きませんよ | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.77 | エ | ー | モノ | ニヤ | ー | いいものには いかないが それ。 | いいものには ならないよ | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.100 | イロン | ナ | カザリ | モン | モ | いろんな 飾り物も 置いてありますかね。 | いろんな 飾り物も 置いてありますよ。 | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.101 | アリ | ー | ヨ | ミタン | ジャガ | あれを見たのだが テレビで。 | あれを見たんだよ テレビで。 | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.104 | コ | ー | ヤツ | チャー | ク | こう やつては 組んでおられたが。 | こう やつては 組んでおられたよ。 | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.106 | イク | コ | ト | ガ | ナイ | 行く ことが ないように なったからだが。 | 行く ことが ないように なったからだよ | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.108 | アノ | マツリ | ガ | アツ | デ | あの 祭りが あつたでしょうよ。 | あの 祭りが あつたでしょう。 | C |
| 15-I | 広島 | p.110 | ヒト | ツ | ヤ | フ | タツ | 一つや 二つでは いけないが。 | 一つや 二つでは だめだよ。 | D-2 |
| 15-I | 広島 | p.111 | ソリ | ヤ | ー | マ | ー | それは まあ そうだが。 | それは まあ そうだよ | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.139 | X1 | チャ | ン | ガ | キ | X1ちゃんが 来ただろうよ。 | X1ちゃんが 来ただろう。 | D |
| 15-II | 山口 | p.146 | ナン | ジ | ヤ | ロ | ー | なんだろうかな。 | あれだろう | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.151 | パイ | ブ | ヲ | ロ | エ | パイブ[を] 泥に 埋めて やつてあるだろうよ。 | パイブ[を]泥に埋めてやつてあるだろう | C |
| 15-II | 山口 | p.154 | ミズ | ガ | デ | ョ | ー | 水が 出ているんだよ。 | 水が 出るんだよ。 | D |
| 15-II | 山口 | p.165 | カタ | ヒ | マ | ホ | ー | 片手間[に] 掘ったんだよ。 | 片手間[に] 掘ったんだよ。 | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.167 | ヤリ | ツ | ケ | ル | ト | やりつけると どうも ないけど。 | やりつけると どうも ないよ | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.177 | イ | フ | レ | チ | ョ | 言われていることは 言われているかね。 | 言われていることは言われているよ | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.179 | ハ | カ | ツ | テ | ミ | 測って みたことは ないかね。 | 測って みたことは ないよ | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.189 | ニ | サ | ン | チ | ハ | 2,3日 もう 日にちが かかるでしょうが。 | 2,3日 もう 日にちが かかるでしょう。 | C |
| 15-II | 山口 | p.198 | ナ | エ | ト | リ | ヤ | 苗取りだろうよ。 | 苗取りだろう。 | B |
| 15-II | 山口 | p.199 | ナ | エ | ト | リ | ガ | 苗取りが 全然 いらぬだろうね。 | 苗取りが 全然 いらぬだろう。 | D |
| 15-II | 山口 | p.204 | ケ | ン | ク | ー | セ | 研究しないと 駄目だろうね | 研究しないと 駄目だろう | D |
| 15-II | 山口 | p.205 | イチ | ョ | ー | グ | ラ | 一町くらい 田があるくらいだよ。 | 一町くらい 田があるくらいだよ | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.216 | ソー | ユ | ー | フ | ー | そういう ふうになれば いいかと思つてね。 | そういう ふうになればいいかと思つてね。 | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.217 | テ | ン | コ | ー | ガ | 天候が ガンガン 照つたでしょうね。 | 天候が ガンガン 照つたでしょう。 | C |
| 15-II | 山口 | p.220 | キノ | ー | チ | ョ | ツ | 昨日 ちよつと 来たかね。 | 昨日 ちよつと 来たよ。 | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.220 | モ | ー | シ | レ | チ | もう しおれている というが。 | もう しおれている と言うよ | D-2 |

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|------|------------------------|-----------------------|----------------------|-----|
| 15-II | 山口 | p.231 | アレ | ワスレシヤガ | あれ 忘れなさい | あれ 忘れなさい | D-2 |
| 15-II | 山口 | p.243 | コンダ | カカンニヤ イケマーガナ | 今度は 掻かなければ いけないだろう | 今度は 掻かなければ いけないだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.42 | ドコソコ | ボエト ワケトツロガナ | どここの[池用の] 棒と分けていただろうよ | どここの[池用の] 棒と分けていただろう | C |
| 16-I | 香川 | p.45 | イタ | ヒト ナインジャガ ナー | 行った人はいないんだねえ | 行った人はいないんだよ | D-2 |
| 16-I | 香川 | p.52 | ソー | ジャガナ | そうだよ | そうだよ | D-2 |
| 16-I | 香川 | p.59 | サン | ネンモ ヨネンモ カカットロガ ナ | 3年も4年も かかっているだろうよ | 3年も4年も かかっているだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.60 | コー | ノメセマイガ ナ | 買って 飲ませないだろうよ | 買って 飲ませはしないだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.60 | アソ | エ(シ)ゴ、イェ タテロガ ナー | あそこへね、家[を] 建てているだろうよ | あそこへね、家[を] 建てているだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.66 | ナノ | ホーニ シテクレロガ ナ | 何のように してくれるだろうよ | 何のように してくれるだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.68 | イク | ヒト イケン トコロガ アロガ ナ | 行く人と 行けない ところがあるだろうよ | 行く人と 行けない ところがあるだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.70 | ファミ | イタコト アロガ ナ | 踏み[固め]に 行った ことがあるだろうよ | 踏み[固め]に 行った ことがあるだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.76 | シン | イケノ ホーシガ オーキナカロガ | 新池の方が おおきいだろうよ | 新池の方が おおきいだろう | C |
| 16-I | 香川 | p.77 | ミヤ | イケジャノ ユーノガ アットロガ ナ | 宮池の [と]いうのが あっただろうよ | 宮池の [と]いうのが あっただろう | C |
| 17-I | 愛媛 | p.26 | コマ | カッタロゲ | 小さかっただろうが | 小さかっただろう | A |
| 17-I | 愛媛 | p.37 | ナニ | ヤラ オラヴ コエガ スルノジャガ | 何やら 叫ぶ 声があるのだが | 何やら 叫ぶ声があるんだよ | D-2 |
| 17-I | 愛媛 | p.40 | タニ | ガ アルノヤガ | 谷があるのだが | 谷があるんだよ | C |
| 17-I | 愛媛 | p.117 | ニワ | ウエニ ツツテアロガ ナー | 庭の 上につりさげであるだろうね | 庭の上につりさげであるだろう | D-2 |
| 17-I | 愛媛 | p.117 | アゲ | テー オリヨツタンジャガノ | あけて いたのだがね | あけて いたんだよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.152 | マー | ラチンオ シタガ | まあ 馬に荷をつけて運ぶことをした | まあ 馬に荷をつけて運ぶことをしたよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.156 | シ | レエ カキボーオ ツッコーデー カイタガ | それへ 天秤棒を突っ込んで 担いだの | それへ 天秤棒を突っ込んで担いだじゃない | C |
| 17-II | 高知 | p.158 | ゲン | サイ ツクリヨウ ウケ(シ)チャガ ホラ | 現在 米[を] 作っているわけだが ほら | 現在 米[を] 作っているわけじゃない | C |
| 17-II | 高知 | p.174 | エー | ヨート コシラエテ アルガ | やつのことで 作ってあるの | やつのことで 作ってあるじゃない | C |
| 17-II | 高知 | p.181 | ヂ | ーンマ バンバガシラン ユーローガヨ | 「ドンマ バンバ」とか いうだろうが | 「ドンマ バンバ」とか いうだろう | C |
| 17-II | 高知 | p.183 | ヨ | イヤセー イヨツツローガヨ? | 「ヨイヤセ」[と]言っていただろうがね? | 「ヨイヤセ」[と]言っていただろう? | C |
| 17-II | 高知 | p.185 | バン | ネリカシラン ユーテ ャツツロガヨ? | ばん練りとか 言っていただろうがね? | ばん練りとか 言っていただろう? | C |
| 17-II | 高知 | p.186 | イ | タガ ナ | 行ったがね | 行ったよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.188 | ヨ | ー ソライテ ツンヂヨルガ ナー | よく 反らして 積んでいるがね | よく 反らして 積んであるよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.198 | ア | ツツタ プンチャキ イカンガ ノー | 小作した 身分だから いけないがね | 小作した 身分だから だめだね | C |
| 17-II | 高知 | p.204 | オ | バールガ ヤリヨツタガ | おはあさんたちが やっていたの | おはあさんたちが やっていたじゃない | C |
| 17-II | 高知 | p.208 | ハ | ヤ(シ)ドーロガ ツイチヨルガ ナ | もう 道路がついているよ | もう 道路がついているじゃない | C |
| 17-II | 高知 | p.215 | ド | ーグ ユー モンガ ナカッタローガヨ | 道具 [と]いう ものが なかっただろうが | 道具 [と]いう ものが なかっただろう | C |
| 17-II | 高知 | p.224 | サン | ベンバー サラシチュローガ | 三べんくらい 晒しているだろうが | 三べんくらい 晒しているだろう | C |
| 17-II | 高知 | p.231 | キュー | ニ キラナ イカザツタガ ナー | 急に 切らないと いけないがね | 急に 切らないと いけなかつたじゃない | C |
| 17-II | 高知 | p.235 | シヤツ | シヤツ シヤツ コー イタガ ナ | シヤツ シヤツ シヤツと こう いったがね | シヤツ シヤツ シヤツと こういったよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.240 | ミツ | マター マツ シヨカッタガ | ミツマタ[は] もっと しやすかつたが | ミツマタ[は] もっと しやすかつたよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.242 | … | ト ユーヨナ オモイガ シタガ | …というよな 思いが した | …というよな 思いがしたよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.244 | シ | アガ リヂヤツタガ ナ | 仕上がりだつたがね | 仕上がりだつたよ | D-2 |
| 17-II | 高知 | p.249 | オ | モシロイバー コー イタガ ナー | おもしろいほど こう いったがね | おもしろいほど こう いったじゃない | C |
| 18-I | 福岡 | p.33 | ケー | キガ イーナー ト オモテ オモイヨツタガナ | 景気が いいなあ と思っていたがね | 景気が いいなあ と思っていたよ | D-2 |
| 18-I | 福岡 | p.34 | ミン | ナ ソーヤットローガ | みんな そうだつたろうが | みんな そうだつたろう | D-2 |
| 18-I | 福岡 | p.46 | クス | スリー モライ イツタ コトガ アルガナ | 葉[を] もらいに 行ったことがあるがね | 葉[を] もらいに 行ったことがあるよ | D-2 |
| 18-I | 福岡 | p.46 | イツ | タ ホーニ アツタガ | 行った 方に あつた | 行った 方に あつたよ | D-2 |
| 18-I | 福岡 | p.48 | イシ | ヤチュウ イシヤー ナカッタガナ | 医者という 医者は なかつたがね | 医者という 医者は なかつたよ | D-2 |
| 18-I | 福岡 | p.51 | イ | エガ チート カタマツチヨツタガ | 家が 少し かたまつていた | 家が少しかたまつていたじゃない | C |

| | | | | | | | | | | | |
|--------|----|-------|--------|----------|------------|---------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------|---------------------------|-----|
| 18-1 | 福岡 | p.58 | サトガ | オークラノ | X12チュエーチナー | アツタガ | 里が 大蔵の X12とってね、あつたが | 里が 大蔵の X12とってね、あつたよ | D-2 | | |
| 18-1 | 福岡 | p.68 | オーケナ | イケヤロガ | アレー | | 大きな池だろが あれ。 | 大きな池だろ あれ。 | C | | |
| 18-1 | 福岡 | p.69 | チーサナ | ツツミヤロガ | | | 小さな池だろが。 | 小さな池だろ。 | C | | |
| 18-1 | 福岡 | p.73 | マツタク | ベンリニ | ナリマシタガ。 | | まったく便利に なりましたが。 | まったく便利に なりましたよ。 | D-2 | | |
| 18-1 | 福岡 | p.73 | アンマリ | トール | ヒトワ | オルマイガナー | あまり通る 人は いないだろがね。 | あまり通る 人は いないだろ。 | A | | |
| 18-1 | 福岡 | p.81 | モローチ | シヨツタガナー | | | もらって 作っていただけね。 | もらって 作っていただけよ。 | D-2 | | |
| 18-II | 大分 | p.124 | モー | ショーガツガ | クンゾジャガナー | エ | もう 正月が 来るだけね。 | もう正月が 来るんだよ。 | D-2 | | |
| 18-II | 大分 | p.133 | タク | アゲヨツタガナー | | | 凧を上げていただけね。 | 凧を上げていただけよ。 | D-2 | | |
| 18-II | 大分 | p.148 | アンマリ | イー | コター | ネーロガエ | あんまり いいことは ないだろが | あんまり いいことは ないだろ | B | | |
| 18-II | 大分 | p.165 | トリ | キヨツタガ | | | 【私のところにも】とりに 来ていたが。 | 【私のところにも】とりに 来ていたよ | D-2 | | |
| 18-III | 宮崎 | p.190 | リョー | シヤツタガナー | | | 漁をされたがね。 | 漁をされたよ。 | D-2 | | |
| 18-III | 宮崎 | p.193 | ボケアミガ | デヨツタガナー | | | 棒受け網が 出ていたがね。 | 棒受け網が 出ていたよ。 | D-2 | | |
| 18-III | 宮崎 | p.198 | サンジュ | ネー | グライ | ナンナツダガナー | 30年くらい【に】 なりなさるだろが。 | 30年くらい【に】 なりなさるだろ。 | B | | |
| 18-III | 宮崎 | p.198 | アツタガナー | | | | あつたよね | あつたよ | D-2 | | |
| 18-III | 宮崎 | p.199 | ハラヒツツ | ハラヒツツ | ワタリヨツタガナー | | 腹いっぱい 腹いっぱい もらえていたがね。 | 腹いっぱい 腹いっぱい もらえていたよ。 | D-2 | | |
| 18-III | 宮崎 | p.200 | ヒトニ | クレナツツガ | オイカツタロガ | | 他人に おやりになるのが 多かっただろがよ。 | 他人に おやりになるのが 多かっただろ。 | B | | |
| 18-III | 宮崎 | p.206 | マー | コツチャガ | | | 本当だね | 本当だよ | D-2 | | |
| 18-III | 宮崎 | p.207 | コー | ケイシヤガ | オランゴツ | ナツタガ。 | 後継者が いないようになつたね。 | 後継者が なくなつたじゃない | C | | |
| 18-III | 宮崎 | p.207 | リョー | シン | ナルコワ | オランガ。 | 漁師になる 子はいないよ。 | 漁師になる 子はいないじゃない | C | | |
| 18-III | 宮崎 | p.218 | ツレ | レイ | キヤラシ | ダ | 連れていかれないだろが。 | 連れていかれないだろ。 | B | | |
| 18-III | 宮崎 | p.220 | マケ | ナランガ | | | 負けなさいよ。 | 負けなさいじゃない | C | | |
| 18-III | 宮崎 | p.221 | X6 | チュエ | オツタガナ | | X6とって いただけね | X6というのが いたじゃない | C | | |
| 18-III | 宮崎 | p.243 | オト | トガ | ゴドモオ | モロチヨシナツトヤロガナー | 弟の 子どもを もらって いるさるの だろが。 | 弟の 子どもを もらって いるさるの だろ。 | C | | |
| 19-1 | 佐賀 | p.28 | キテ | ノ | ナカローガ | | 【嫁に】来る 人が ないだろが | 【嫁に】来る 人が ないだろ | C | | |
| 19-1 | 佐賀 | p.52 | ネ | ルン | ミヤガ | | 【自分も】隠れ ないだろが。 | 【自分も】隠れ ないだろ。 | C | | |
| 19-1 | 佐賀 | p.53 | キラン | バ | ジャツタロガ | | 切らないと いけなかつた だろが。 | 切らないと いけなかつた だろ。 | C | | |
| 19-1 | 佐賀 | p.55 | トラ | ン | バイカン | カツタロガ | とらないと いけなかつた だろが。 | とらないと いけなかつた だろ。 | C | | |
| 19-1 | 佐賀 | p.66 | マル | カシ | キラン | ヤロガ | 束ねられない だろが。 | 束ねられない だろ。 | C | | |
| 19-1 | 佐賀 | p.68 | ミ | シツ | ケノ | ゴト | ナローガ | 見せつけの ように なる だろが。 | 見せつけの ように なる だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.64 | ネ | トツ | ウチ | ゴハン | デキューガ | 寝ている うち【に】 ご飯が できる だろが。 | 寝ている うち【に】 ご飯が できる だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.65 | オ | カズ | ダケ | ケンガ | モー | おかず だけだから もう 早い だろが。 | おかず だけだから もう 早い だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.76 | ム | カ | シヤ | ソガ | ン | 昔は そんなで は ない だろが。 | 昔は そんなで は ない だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.81 | マ | カ | ニヤ | シテ | ノ | 炊事する 人が ある だろが。 | 炊事する 人が ある だろ。 | D | |
| 19-1 | 佐賀 | p.82 | ゴ | ン | ガ | ナイ | カノ | 子どもが なんの かの 食べない だろが。 | 子どもが なんの かの 食べない だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.83 | ツ | ケ | モン | シヤ | イ | 漬け物か あれば それで よかつた だろが。 | 漬け物か あれば それで よかつた だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.88 | キ | ヤ | ヤ | イ | カン | 買いに行か なければなら ない だろが。 | 買いに行か なければなら ない だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.89 | タ | メ | ガ | メ | バ | 溜がめを 作って あつた だろが。 | 溜がめを 作って あつた だろ。 | C | |
| 19-1 | 佐賀 | p.91 | ノツ | チ | スツ | ゴト | ナイ | ヨローガ | 乗って【作業をする ように】 なつて いる だろが。 | 乗って【作業をする ように】 なつて いる だろ。 | C |
| 19-1 | 佐賀 | p.91 | ナン | デン | ソ | ゴト | ク | ヤローガ | なんでも そんな ふう だろが。 | なんでも そんな ふう だろ。 | C |
| 19-1 | 佐賀 | p.91 | ガ | シ | コ | カ | フ | ト | これだけ 変わつて いる だろが。 | これだけ 変わつて いる だろ。 | C |
| 19-1 | 佐賀 | p.96 | ジョ | ー | ヨ | ー | ニ | ノ | 乗用【トラクター】に 乗る ように なつた だろが。 | 乗用【トラクター】に 乗る ように なつた だろ。 | C |
| 19-1 | 佐賀 | p.97 | ハラ | ゴ | エ | ノ | ゴ | ト | 妊娠中の ような とか なんと かつた だろが。 | 妊娠中の ような とか なんと かつた だろ。 | C |
| 19-1 | 佐賀 | p.98 | オ | ジ | ー | サン | マ | ッ | おじいさん【は】 まっすぐ 百姓 だろが。 | おじいさん【は】 まっすぐ 百姓 だろ。 | C |
| 19-II | 長崎 | p.126 | オ | ト | ク | イ | サン | ニ | お得意さんに 持つて 行く ですよ | お得意さんに 持つて 行く ですよ | D-2 |

| | | | | | | |
|--------|-----|-------|--------------------------------|---------------------------|----------------------------|-----|
| 19-II | 長崎 | p.129 | ウリユク シトモ ソレゾレ オルデスガ | 売り行く 人も それぞれ いるのですが | 売り行く 人も それぞれ いますよ | D-2 |
| 19-II | 長崎 | p.133 | イレテ モッテイキヨルデスガ | 入れて 持っているのだから | 入れて 持っているのですよ | D-2 |
| 19-II | 長崎 | p.159 | ハイテ イタデスガネ | はいて 行ったのですかね | はいて 行ったのですよ | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.186 | ナントカ イオツタガネ | なんとか 言っていたがね | なんとか 言ったじゃない | C |
| 19-III | 熊本 | p.186 | ナントカ イウホツタガ | なんとか 言っていたが | なんとか 言ったじゃない | C |
| 19-III | 熊本 | p.197 | ワーン チューツロガナ | ワーン と言ったらがね | ワーン と言ったらう。 | C |
| 19-III | 熊本 | p.202 | シットドガナ | 知っているだろうがね | 知っているだろう。 | C |
| 19-III | 熊本 | p.209 | アユーデ モドヨツタガナ | 歩いて 戻っていたがね | 歩いて 戻っていたじゃない | C |
| 19-III | 熊本 | p.214 | ミセテモ ヨカガ | 見せても いいが | 見せても いいよ。 | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.221 | メシ クテカラ オナゴウ ジャロガナ | ごはん[を] 食べてから 女は [入る]だろうがね | ごはん[を]食べてから女は[入る]のだった[ら]う。 | C |
| 19-III | 熊本 | p.228 | アスコジャロガナ | あそこだろうがね | あそこだろう | C |
| 19-III | 熊本 | p.230 | オレーテミヤッタゲナガ | 下してみられたそうだが | おろしてみられたそうだよ | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.231 | イーヤッタ チューガナ | 言われた という[話]だかね | 言われた という話だよ | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.234 | フテ コト ユーテ カタイオットヤッタガ | 大きい こと[話] 言って 話しているのだった | 大きい ことを 言って 話していたよ。 | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.242 | カンソシツ ツクテアイガナ | 乾燥室[を] 作ったがね | 乾燥室を作ったよ。 | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.246 | ヤクヒンカ ナンカン ナルグタツフーナ ハナシモ キイタガナ | 薬品か なにかに なるようなふうな 話だった | 薬品か なにかに なるような 話だったよ。 | D-2 |
| 19-III | 熊本 | p.246 | ソイガ ダイイカイチヤッタガナ | そうした 話も 聞いたがね | そうした 話も聞いたよ。 | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.26 | ソイガ ダイイカイチヤッタガナ | それが 第一回だったかな | 第一回だったよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.26 | イノチコ ーガ X1クンチャッタロガ | 第一号が X1君だったろうがね | X1君だったろう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.29 | リグン イッタロガ | 陸軍[に] 行ったろうがね | 陸軍[に] 行ったろう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.29 | ヤツタツガナ | だったけどね | だったよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.33 | ハジマツテカラコツチオ ユトゴイチャットガイ イマ | 始まって以降の ことを 言っているところだが | 始まって以降の ことを 言っているところだよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.39 | オ(ン)チチヤイガ | おじさんだが | おじさんだよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.39 | オ(ン)チチヤイガ | おじさんだが | おじさんだよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.51 | グノ アイヂヤ ナカッタヤロガ | 軍のあれでは なかったらうか | 軍のあれではなかつたらう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.51 | コン ゲンエキガ タイフンチャッタローガ | この 現役が 台湾だったらうがね | 台湾だったらう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.52 | ヂヤッタロガ | そうだったらうよ | そうだったらう | A |
| 20-I | 鹿児島 | p.58 | ソイクサ ロージンノシチヤッタロガナ | それこそ 老人たちだったらうよ | それこそ 老人たちだったらう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.74 | モー ナンダチヤイガ | もう 涙だが | もう 涙だよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.75 | コッカイトイオツタガ アンタ | ここから 飛んでいったが あれは | ここから 飛んでいったじゃない | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.76 | オマイリウ シチヤミランガ | お参りは してはみないが | お参りは してないよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.79 | X30アンサンニヤ クマモトチャツドカ ナー | X30おにいさんは 熊本だったかね | 熊本だったらう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.83 | ゲンチジョーシユーチヤッタロカ | 現地招集だったらうが あちらで | 現地招集だったらう。 | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.83 | X34アンサンガ トゲー オツタロガ | X34おにいさんの ところに いたらうよ | X34おにいさんの ところに いたらう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.91 | コステイデ モユー シオットロガ | 交代で 守りをして いたらうが | 交代で 守りをして いたらう。 | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.94 | アスコオ ハイキキチカラチャッタロガ | あそこを ふさいで いたらうがね | あそこを ふさいで いたらう | A |
| 20-I | 鹿児島 | p.99 | コツチチャッタロガ | あそこを 来たらうか | あそこを 来たらう | A |
| 20-I | 鹿児島 | p.99 | キチエガ イ イッキチヤッタガ | 来てから すぐだったか | 来てから すぐだったよ | D-2 |
| 20-I | 鹿児島 | p.99 | コツチチャッタロガ | あそこを 来たらうか | あそこを 来たらう | A |
| 20-I | 鹿児島 | p.105 | ソノ モヂュ ナク イ トシヂヤッタロガ | その 餅を 投げる 年だったらうか | その 餅を 投げる 年だったらう | C |
| 20-I | 鹿児島 | p.105 | チャラセンチヤッタロガ タツカ | そうではなかつたらうか 確か | そうではなかつたらう 確か | A |